

ニ由ル

第九條ハ通信學校生徒、熊谷飛行學校操縱生徒、
航空技術學校技術生徒ニシテ卒業ノ爲他部隊
ニ轉スルトキノ著裝被服ハ幼年學校生徒ト同
様ニ取扱フノ要アルト其ノ他飛行學校令ノ改
正ニ伴ヒ改正ノ要アルニ由ル

官衙學校經理規程新舊對照

第三條 幼年學校及教導隊、練習隊、下士官候補者隊、學生隊、生徒隊又ハ之ニ準スル部隊ヲ有スル學校ニ於ケル糧食、被服及馬匹ニ係ル給與、經理ハ經理委員ヲ設ケ之ヲ實施スヘシ

第五條 軍、師團ノ軍法會議及衛戍拘禁所ニ係ル經理事務ハ當該軍司令部又ハ師團司令部ニ於テ之ヲ擔任スヘシ

東部防衛司令部ニ係ル經理事務ハ東京警備司令部、中部防衛司令部ニ係ル經理事務ハ第四師團司令部ニ於テ之ヲ擔任スヘシ

衛戍刑務所ニ係ル經理事務ハ所管長官ノ定
ムル所ニ依リ當該軍司令部又ハ師團司令部ニ
於テ之ヲ擔任スルコトヲ得

第八條 軍隊經理規程第四十條第一項ニ依ル現品
交付ノ被服品中通信學校生徒、(飛行學校生
徒)熊谷飛行學校操縦生徒、航空技術學校
技術生徒、士官學校豫科生徒、幼年學校生
徒、樂手補及軍樂生徒ニ要スル軍帽軍衣袴、
夏衣袴、外套、防雨外套、編上靴、營内靴及
革脚絆ハ現品ノ交付ヲ請求セサルコトヲ得

第九條 官衙學校ノ下士官以下其ノ所屬ヲ轉スル

等ノ場合ニ於ケル被服ノ取扱ハ軍隊經理規程
第五十二條及別ニ定メアルモノノ外左ノ各號ニ依ル
第一項第一號略

二 諸學校（幼年學校ヲ除ク）生徒（通信
學校生徒、熊谷飛行學校操縦生徒、航空技術
學校技術生徒及幼年學校生徒ヲ除ク）ニシテ卒
業任官等、爲他部隊ニ轉スルトキハ軍隊經理規
程附表第五ノ時服一揃（所持品中最新ノ被
服ニ相當ノ徽章ヲ附ス）ヲ著裝セシムヘシ

三（幼年學校生徒ニシテ士官學校豫科ニ）通信學
校生徒、熊谷飛行學校操縦生徒、航空技術

學校技術生徒又ハ幼年學校生徒ニシテ卒業ノ
爲他部隊ニ轉スルトキハ帽、衣袴、(防雨外套)外套
又ハ防雨外套、襟布、襦袢袴下、編上靴、靴下及
卷脚絆各一著ヲ著装セシムヘシ

四號略

第二項略

保存期限

永久

決裁指定

次官委任

決行指定

牛島

政務次官回付 決裁前後連帶課名 主、軍、兵、統、器、書

決行(決裁)後回覽課名

永久命 (公任)

受領番號

第 貳 第 一 五 四 號

起元廳(課)名

監 查 課

件名

陸軍會計事務規程中改正ノ件

大臣委任

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官
官房御用掛

主務課員

審案
筆記者

大臣官房	主務局長	主務課長	主務副官	主務課員
了結	領受	出提	領受	號番
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	監第 六 五 號

(決裁)行決覽 回後

局長

局長

長課

長課

陸軍

陸達第 號

陸軍會計事務規程中左ノ通改正ス

昭和 年 月

日 陸達第二十六號

官報照合

陸軍大臣

第二條中「東京警備司令部」ノ下ニ「防衛司

令部」ヲ加フ

第十條中「留守主計正」ヲ除ク」ヲ「留守

主計正及陸軍航空本部專任部員タル高級

先任ノ主計正」ヲ除ク」ニ改ム

第二十一條中「陸軍航空本部」ノ下ニ「專

任部員タル」ヲ加フ

第四十五條第六號中「但シ航空ニ関スル
 器材ノ契約ハ補給部長」ヲ削リ「東京警
 備司令部」ノ下ニ「及防衛司令部」ヲ加フ
 別表第一中

陸軍航空本部高級先任ノ主計正

當該本部次級主計正

航空本部及飛行學校ニ係ル收入及
 經費但シ當該所管ノ經理部ニ豫算
 ヲ令達スルモノヲ除フ

陸軍航空本部專任部員タル

陸軍航空本部部員

高級先任ノ主計正

タル次級主計正(主計)

航空本部、航空技術研究所、飛行
 學校及航空技術學校ニ係ル收入及
 經費但シ當該所管ノ經理部ニ
 豫算ヲ令達スルモノヲ除フ

三
 四

陸軍航空本廠會計課長

陸軍航空本廠廠員ヲ
ル高級先任主計正(主計)

航空廠係ル收入及經費但シ當該所
管ノ經理部豫算ヲ令達スルモノヲ除ク

ニ改ム

附則

本達ハ昭和十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

改正理由

第二條及第四十五條ハ防衛司令部ノ新設ニ伴ヒ改正
ノ要アルニ由ル

第十條及第二十一條ハ歳入徴收官及支出官ノ更
迭ノ際ノ通知ニ関シ航空本部專任部員タル高級
先任ノ主計正ヲ除外スルノ要アルニ由ル

第四十五條及別表第一八航空本廠ノ新設
ニ伴ヒ改正ノ要アルニ由ル

陸軍

陸軍會計事務規程新舊對照

第二條 本規程ニ於テ官衙トハ陸軍大臣官房、陸軍省各局、參謀本部、教育總監部、東京警備司令部、防衛司令部、師團司令部、朝鮮軍司令部、台灣軍司令部、關東軍司令部、支那駐屯軍司令部、憲兵司令部並陸軍大臣ニ直隸スル官衙學校等ヲ謂フ
並陸軍大臣ニ直隸セサル官衙學校等ヲ謂フ

第十條 本文略

但シ歳入徴収官タル者（留守主計正ヲ除ク）（留守主計正及陸軍航空本部事務部員タル高級先任ノ主計

正ヲ除クノ更迭ニシテ官報ニ掲載アリタルトキハ該通知ヲ要セス

第三條 本文略

但シ支出官タル者（留守主計正及陸軍航空本部事務部員タル高級先任ノ主計正ヲ除ク）ノ更迭ニシテ官報ニ掲載アリタルトキハ至急支拂ヲ要スル場合ノ外該通知ヲ要セス

第四條 第一號乃至第五號 略

六前號以外ノ官各所ニ係ル第一號乃至第四號以外ノモノノ契約ノ擔任官ハ當該官衙各所ノ長官但シ陸軍省ニ在リテハ經理局主計課長、參謀本部及教

育總監部ニ在リテハ庶務課長、陸軍航空本部ニ
在リテハ總務部長（但シ航空ニ關スル器材、契約
ハ補給部長）、陸軍技術本部ニ在リテハ總務部長
、東京警備司令部及防衛司令部ニ在リテハ高
級副官、陸軍造兵廠ニ在リテハ會計部長トス

託金及預金ヲ併記シ又其ノ引繼目錄ニハ引繼クヘキ帳簿、證憑其ノ他ノ書類ヲ總テ併記スヘシ

第十章 帳簿及印章

第二百二條 支出官ハ支出簿ノ外必要ニ應シ支出目別簿、前渡資金整理簿、概算拂金整理簿及前金拂整理簿(以上陸軍會計簿表規程様式ニ依ル)ヲ備ヘ經費ノ支出及整理ノ現況ヲ明ニスヘシ

第二百三條 出納官吏ハ現金出納簿ノ外必要ニ應シ前渡資金整理簿、概算拂金整理簿及前金拂整理簿(以上陸軍會計簿表規程様式ニ依ル)ヲ備ヘ現金ノ出納及整理ノ現況ヲ明ニスヘシ

第二百四條 官衙各所ハ定額簿(陸軍會計簿表規程様式ニ依ル)ヲ備ヘ支拂豫算ノ現況ヲ明ニス必要ニ應シ整理簿及試算表(以上陸軍會計簿表規程様式ニ依ル)ヲ備ヘ經費ノ支出及整理ノ現況ヲ明ニスヘシ

第二百五條 官衙各所ハ必要ニ應シ保管金整理簿及寄託有價證券整理簿(以上陸軍會計簿表規程様式ニ依ル)ヲ備ヘ保管金及日本銀行ニ寄託ノ政府所有又ハ保管ノ有價證券ノ出納ノ現況ヲ明ニスヘシ

第二百六條 現金出納簿ハ一人一冊トス但シ二箇以上ノ官衙各所ヲ兼務スル出納官吏ハ官衙各所毎ニ現金出納簿ヲ備

フルコトヲ得

第七條 現金出納簿ノ記帳ハ證書一葉毎ニ之ヲ爲スヘシ但シ別ニ受拂合計書ヲ調製シタル場合ニ限り科目毎ニ數證書ヲ取纏メ登記スルコトヲ得

第八條 經理部長ハ官衙各所ノ經理檢査ヲ終リタルトキハ主要帳簿ノ末尾ニ檢査濟ノ旨及其ノ年月日ヲ記入シ記名捺印スヘシ

第九條 歳入徵收官、支出官及出納官吏ハ別表第二ノ雜形ニ依リ職印ヲ備フヘシ但シ臨時出納官吏及分任出納官吏ニ在リテハ之ヲ備附ケサルコトヲ得

第十條 前項ノ職印ハ其ノ保管ヲ嚴密ニシ歳入徵收官、支出官又ハ出納官吏ノ名ヲ以テスル金錢有價證券ノ收支ニ關スル書類(往復文書ノ類ヲ除ク)ニ限り之ヲ用ウヘシ但シ出納官吏ノ職印ハ日本銀行ニ直接關係アル金錢有價證券ノ收支ニ關スル書類ニ限り之ヲ用ウヘシ

第十一章 雜則

第十條 第五條、第四十五條、第七十三條、第七十五條第九十四條及第九十五條中經理部又ハ經理部長トアルハ師團滿洲駐劄又ハ外地派遣ノ場合ニ於ケル内地所在部隊ニ係ルモノニ付テハ當該經理部留守部又ハ留守主計正トス

考	備	千住 製絨所 所長	千住 製絨所 會計課長	千住 製絨所 收入及經費
	一 出張所又ハ派出所ニ係ル收入及經費ノ歳入徴收官及支出官ハ該出張所又ハ派出所ノ屬スル官衙ノモノニ同シ但シ内地以外ノ運輸部出張所ヲ除ク 二 本表所管區分ニ定メタルモノノ外必要ノ場合ニ在リテハ支拂豫算書ヲ以テ小切手ノ振出ヲ委任スルコトアルヘシ	陸軍 造兵廠 會計課長	當該工廠職員タル高級先任ノ主計正(主計)	當該工廠ニ係ル收入、恩給法ニ依ル文官納金(ニ限ル)及作業會計經費
		陸軍 造兵廠 會計部長	陸軍 造兵廠 職員タル主計正	陸軍 造兵廠ニ係ル收入及經費但シ陸軍造兵廠會計課長ノ所管ニ關スルモノヲ除ク
		陸軍 糧秣 本廠 長	當該本廠高級先任ノ職員	糧秣ニ係ル收入及經費並軍馬補充部依託購買ニ係ル經費但シ當該所管ノ經理部ニ豫算ヲ合達スルモノヲ除ク
		陸軍 被服 本廠 長		被服ニ係ル收入及經費但シ當該所管ノ經理部ニ豫算ヲ合達スルモノヲ除ク
		陸軍 兵器 本廠 長		兵器廠ニ係ル收入及經費但シ當該所管ノ經理部ニ豫算ヲ合達スルモノヲ除ク
		軍馬 補充部 本部長	當該本部高級先任ノ部員	軍馬補充部ニ係ル收入及經費並糧秣ニ委託購買ノ馬但シ當該所管ノ經理部ニ豫算ヲ合達スルモノヲ除ク
		陸軍 航空本部 部長	當該本部高級先任ノ部員	航空本部ニ係ル收入及經費但シ陸軍航空本部ニ豫算ヲ合達スルモノヲ除ク
		支那駐屯軍司令部附主計	支那駐屯軍司令部附主計	支那駐屯軍司令部各所ニ係ル收入及經費中外地ニ於テ取扱フモノ
		關東軍 經理部長	當該經理部高級先任ノ部員	關東州及滿洲内所在官衙各所ニ係ル收入及經費但シ他ノ歳入徴收官及支出官ノ所管ニ關スルモノヲ除ク
		臺灣軍 經理部長	當該經理部高級先任ノ部員	臺灣内所在官衙各所ニ係ル收入及經費但シ他ノ歳入徴收官及支出官ノ所管ニ關スルモノヲ除ク
		朝鮮軍 經理部長	當該經理部高級先任ノ部員	朝鮮内所在官衙各所ニ係ル收入及經費但シ他ノ歳入徴收官及支出官ノ所管ニ關スルモノヲ除ク

三六九

牛島
 執行指定
 次任官
 決裁指定
 永久
 保存期限

主務局長
 受領
 昭和三十九年
 提出
 昭和三十九年
 受領
 昭和三十九年
 了結
 昭和三十九年
 大官房

大臣委
 主務局長
 次官
 政務次官

陸軍旅費規則中改正ノ件
 受領
 陸軍省
 第一五三七

連帶
 局長
 決行後
 局長

高級副官
 主務課長
 牛島
 參與官

起元應(課)名
 監查課

主務課長
 主務副官
 主務課員
 官房御用掛

書記官
 審案
 審案
 審案

政務次官
 參與官
 決裁後
 連帶
 主、軍、兵、徴

永久甲
 会計

陸軍省
 10.7.25
 文/34

決行(決裁)後
 回覽課名

陸軍省
 10.7.25
 第31

陸軍省
 10.7.25
 314

陸軍省
 10.7.12
 午後 時
 主計課

陸軍

大臣ヨリ大藏大臣へ協議案

陸軍旅費規則中別紙ノ通改正致度此段及協議候也（別紙ハ省令案ノ通）

陸普第四二一八大號

昭和十年七月廿七日

右異存ナキ旨回答アリタル後



省 令 案

陸軍省令第

號

陸軍省令第九號

號

八月廿日

陸軍旅費規則中左ノ通改正ス

官報聯合

昭和十年 月 日

陸 軍 大 臣

第九條第一項第八號中「同日」ヲ「同日又ハ同夜」ニ改メ同號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ鐵道旅行中宿泊スル場合ノ外定額ノ少額ナル地ニ宿泊スル場合ノ宿泊料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

幹部候補生及通信學校生徒、熊谷飛行學校操縱生徒并ハ航空技術

學校技術生徒ノ課程ヲ卒業シタル下士官候補者ニ支給スル旅費ハ階級相當ノ額トス但シ下士官ノ階級ニ進メラレタル幹部候補生ニ在リテハ伍長ノ額トス

第九條ノ二及第四十條中「旅籠料倍額」ノ下ニ「（朝鮮、臺灣、樺太又ハ支那ニ在リテハ朝鮮軍司令官、臺灣軍司令官、第七師團長、關東軍司令官又ハ支那駐屯軍司令官ノ定ムル旅籠料ノ倍額）」ヲ加フ

第十二條 陸路三里（官用自動車ニテ旅行スル場合ニ在リテハ六里、官用航空機ニテ旅行スル場合ニ在リテハ離著陸地間ノ距離ナニ里トス以下同シ）未滿ノ地ニ旅行ノ場合ニハ旅費ヲ給セス
出張地滯在中該地ヨリ陸路三里未滿ノ地ニ往復スルトキ亦前項ニ

同シ

鐵道又ハ水路ニ在リテハ鐵道ハ四軒、水路ハ二海里ヲ以テ陸路ニ
里ニ改算シ前二項ノ路程ヲ定ム

第十三條中「三里」ヲ「陸路三里」ニ改ム

第三十六條第一項第五號ヲ左ノ如ク改ム

士官候補生、諸學校生徒採用豫定者又ハ陸地測量部修技所生徒入
隊、入校又ハ入所ノトキ

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

諸學校生徒採用豫定者ニ支給スル旅費ハ諸生徒ノ額トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

第九條ハ一日中ニ定額ノ異ナル地域ヲ旅行ノ場合宿泊料ハ特ニ多額ヲ給スル要ナキト甲種幹部候補生並ニ飛行學校又ハ航空技術學校生徒ノ課程ヲ卒業シタル下士官候補者ニ支給スル旅費ヲ規定シ置クノ要アルニ由ル

第九條ノ二及第四十條ハ各植民地ニ於ケル滞在旅費支給方ヲ明瞭ナラシムルノ要アルニ由ル

第十二條ハ字句ヲ修正スルノ要アルニ由ル

第三十六條ハ陸軍諸學校生徒採用規則ノ改正ニ伴ヒ改正ノ要アルト又此等ノ者ニ支給スル旅費額ヲ規定スルノ要アルニ由ル

陸軍旅費規則中改正案新旧對照

(一)ハ削除
朱書ハ新加

第九條 旅費ノ定額ハ

八 旅費ノ定額ヲ異ニスル場合同日又ハ同夜

ニ生シタルトキハ其ノ多額ニ就キ之ヲ

給ス但シ鐵道旅行中宿泊スル場合ノ外定

額ノ少額ナル地ニ宿泊スル場合ノ宿泊料

ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

幹部候補生及通信學校生徒、熊谷飛行學校

操縱生徒若ハ航空技術學校技術生徒ノ課程ヲ

卒業シタル下士官候補者ニ支給スル旅費ハ階

級相當ノ(下士官兵ノ)額トス但シ下士官ノ
階級級ニ進メラレタル幹部候補生ニ在リテハ伍
長ノ額トス

第九條ノ二 日當及宿泊料ノ支給ヲ受クル者同一
地ニ滞在^ル第^八條^ニ依^ル 十日ヲ超ユルトキハ前條ノ規
定ニ拘ラス其ノ超過日數ニ付日當宿泊料定
額ノ一割ヲ減シ三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過
日數ニ付第五表旅籠料倍額(朝鮮、台灣、樺
太又ハ支那ニ在リテハ朝鮮軍司令官、台灣軍
司令官、第七師團長、關東軍司令官又ハ支
那駐屯軍司令官ノ定ムル旅籠料ノ倍額)ニ相

當スル日當ノミヲ給ス但シ定額ノ一割ヲ減給

スルハ第一表朝鮮、台灣、樺太内ノ旅行ニ在リテハ第八表ニ限ル

所屬長官ニ於テ滞在三十日ヲ超ユルト豫定シ

得ル場合ニ在リテハ三十日以前ト雖前項ニ依ル

第五表旅籠料倍額(朝鮮、台灣、樺太又ハ支

那ニ在リテハ朝鮮軍司令官、台灣軍司令官、第

七師團長、關東軍司令官又ハ支那駐屯軍司

令官ノ定ムル旅籠料ノ倍額)ニ相當スル日當

ノミヲ給スルコトヲ得

以下略

第十二條 在勤部隊(召集者ニ在リテハ召集部

隊、本籍地、寄留地又ハ居住地ヨリ旅行スル者ニ在リテハ本籍地、寄留地若ハ居住地ヲ謂フ以下同シ)所在ノ市町村(内地及台灣樺太以外ノ地ニ在リテハ市町村ニ準スル行政區劃ヲ謂フ以下同シ)内ニ止マル旅行及陸路三里(官用自動車ニテ旅行スル場合ニ在リテハ六里官用航空機ニテ旅行スル場合ニ在リテハ十二里(離著陸地間ノ距離))(官用自動車ニテ旅行スル場合ニ在リテハ六里、官用航空機ニテ旅行スル場合ニ在リテハ離著陸地間ノ距離十二里トス以下同シ)未滿ノ地ニ旅行ノ場合ニハ旅費ヲ給ヤス(出張地滞在該地ヨリ三里官用自動車ニテ旅行スル場合ニ在リテハ六里官用航空機ニテ旅行スル場合ニ在リテハ十二里(離著陸地間ノ距離)))

未満ノ地ニ往復スルトキ亦同シ)

出張地滞在中ノ者其ノ滞在中ノ市町村内ヲ
旅行ノトキ又ハ該地ヨリ陸路三里未満ノ地ニ
往復スルトキ亦前項ニ同シ

鐵道又ハ水路ニ在リテハ鐵道ハ四料、水路ハ二海
里ヲ以テ陸路一里ニ改算シ前二項ノ路程ヲ定
ム

第十三條 同一衛戍地内ニ於ケル左ノ旅行ニ在
リテハ陸路三里以上ト雖旅費ヲ給ヤス
以下略

第十四條 前二條ノ旅行ト雖所屬長官ニ於テ

必要ト認ムルトキハ左ノ旅費ニ限り之ヲ給ス
ルコトヲ得

一 鐵道又ハ水路旅行ヲ要スルモノノ鐵道賃
若ハ船賃但シ行程二里未滿ノ場合並ニ第三
號又ハ第四號ニ該當シ日當ノ支給ヲ受クル
場合ヲ除ク

二 傷疾疾病等ニ依リ歩行セシメ難キ場合ノ車
馬賃實費

三 在勤部隊所在ノ市町村内又ハ陸路三里未滿ノ
地ニ徴兵検査、簡閲点呼、檢閲、検査又ハ之ニ準ス
ルモノニシテ陸軍大臣ノ特ニ指定スル用務ノ爲陸

軍部外ニ出張ヲ命セラレタル場合ノ日當但シ
其ノ日當ハ行程ニ里以上ニ渉ルトキハ定額ノ三分
ノ一額、其ノ四里以上ニ渉ルトキハ定額ノ半額ト
シ官用ノ舟車馬等ニ依リ旅行スルトキハ更ニ
其ノ半額トス

(三) 四 公務ノ都合ニ(ヨ)依リ宿泊セシメタル場合
ノ日當(及)、宿泊料又ハ、旅籠料(及)又ハ演習
手當但シ日當(ハ宿泊シタル日ニ限ル)ノ支給
ニ付テハ前號但書ノ規定ヲ準用ス

(四) 五

(五) 六

第三十六條 修學旅費ハ、――――

五 士官候補生、(士官學校豫科) 諸學校生徒
採用豫定者、(工科學校生徒、通信學校生徒
採用豫定者、飛行學校生徒、同生徒採用豫
定者、戸山學校軍樂生徒) 又ハ陸地測量部
修技所生徒入隊、入校又ハ入所ノトキ

前項第、――――

諸學校生徒採用豫定者ニ支給スル旅費ハ諸生
徒ノ額トス

第四十條 第九條ノ二ニ依ル滯在者ノ中工事物
件ノ修理手入等ニ関シ旅行ノ者ノ日當ニ在リ

テハ第五表旅籠料倍額（朝鮮、台灣、樺太又ハ
支那ニ在リテハ朝鮮軍司令官、台灣軍司令官、
第七師團長、關東軍司令官又ハ支那駐屯軍
司令官ノ定ムル旅籠料ノ倍額）ニ相當スル日
當定額内ニ於テ所管長官之ヲ定ム

陸

軍



藏計第五二一號

昭和十年八月十七日

大藏大臣 高橋 是

陸軍大臣 林 銑十郎 殿



七月二十七日附陸普第四二八六號ヲ以テ陸軍旅費規則中改正ノ件ニ關シ
御協議ノ趣了承右異存無之此段及回答候也

大藏省



式 1537

保存期限

永久

決裁指定

次官
委任

決行指定

牛島

主務局課

號番

昭 和 年 八 月 廿 日	昭 和 年 八 月 廿 日	昭 和 年 八 月 廿 日	昭 和 年 八 月 廿 日
領受	領受	提出	了結

連帶

局長

課長

大臣
委

主務局長

次官

政務次官

主務課長

高級副官

參與官

主務課員

主務副官
官房御用掛

書記官

主務課員

主務副官
官房御用掛

書記官

書記官

審案
筆記者

件名

不動産登記囑託官吏指定、件中改正、件

受領

領

貳第 三三八四

起元應(課)名

監查

政務次官回付

決裁前

連帶

主、軍、器、書

決行(決裁)後
回覽(課)名

永久
甲
公

陸軍省
10.8.17
34
軍器課

陸軍省
10.8.21
第74號
吳村

省令案

明治三十五年陸軍省令第四號不動産登記
嘱託官吏指定ノ件中左ノ通改正ス

昭和 年 月 日

陸軍大臣

陸軍航空本部高級主計正(抵當権ニ限ル)
陸軍航空本廠會計課長(抵當権ニ限ル)
改正

陸軍省第十號

八月廿二日

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由 航空本廠ノ新設ニ伴ヒ改正ノ要アルニ由ル

官報照合

在リテ、樺太、長官、南洋群島ニ在リテ、南洋長官所管大五ヲ經由シ大蔵大五ト取替ヒテ之ヲ定ム

保存切長

政務次官 回付 決裁 前後 連帶 課名 主、衣、軍、

永久甲云々

訂項場合ニ於テ擔保ノ提法ヲ見余延納ヲ許スコトヲ得ル場合ヲ定ム但シ在リテハムカシ

了結 昭和 年 九月 七日

領受 昭和 七年 八月 十二 日

出提 昭和 年 月 日

(裁決)行決 覽回後 帶 長局

長課 長課

主務課員

主務副官 官房御用掛 計掛

書記官

審案 筆記者

起元廳(課)名 監 查 課

延納ニ關スル件

7.8.9 339

陸軍 7 20 時 衣糧課

陸軍省 7 7 18 時 主計課

陸軍省 7 8 9 339

七五 頁

大臣ヨリ大藏大臣へ協議案

首題ノ件左記ニ依リ實施致度大正十年勅令第三百七十四號ニ依リ此段及協議候也

記

陸軍省 陸普第 四八八五 號

昭和七年八月拾五日

一 延納ヲ許スコトヲ得ル場合

千住製絨所ニ於テ其ノ製品ヲ財團法人偕行社及帝國在郷軍人會

ニ賣拂フトキ但シ一口ノ金額參千圓ヲ超ユル場合ニ限ル

二 延納期間

六ヶ月以内

三 擔保

免除ス



本案ハ大蔵省ト折衝中事情爰遷シ互ニ見解ヲ異ニス

本件ハ陸軍令計事務規程第五十一條ヲ改ム
 爲ルニテハ其ノ關係部隊少數ノ分キ不取通
 勝ニ止メ用規程他日同規程ノ一部修ムル
 同規程ニ改ムル加ルニテ止ル

監 査 課



一 陸軍令計事務規程第五十一條ノ改ムル
 間、第一ノ場合ニ在リテハ二年以内、第二ノ場合ニ
 在リテハ六月以内トス
 二 陸軍令計事務規程第五十一條ノ改ムル
 三 陸軍令計事務規程第五十一條ノ改ムル
 四 陸軍令計事務規程第五十一條ノ改ムル
 五 陸軍令計事務規程第五十一條ノ改ムル



社理事長、在郷軍人會

七十四號ニ依リ左記ノ通實

命通牒ス

法人借行社及ハ在郷軍人會

圓ヲ超ユル場合ニ限ル

六ヶ月以内

陸軍

三擔保

免除ス

理 由

軍人軍屬ノ軍裝整備上必要ナル絨類ハ總テ借行社（小帝國）在郷軍
人會ニ於テ千住製絨所ヨリ買受ケタル後之ヲ一般ニ配給シアルモ
（拂下年額約五十萬圓）從來買受資金ノ關係上小口分割契約ヲ爲
ス結果事務繁雜且供給圓滑ヲ欠キ殊ニ動員等突發的ニ多量ノ需要
アル場合之ニ應スルコト能ハス出征軍人軍屬ノ軍裝整備上遺憾ノ
點渺ナカラス

由テ千住製絨所ニ於ケル經營ニ支障ヲ生セサル範圍内ニ於テ代金
ノ延納ヲ許シ以テ絨上ノ欠陥ヲ是正スルノ要アルニ由ル

第九三第

牛島

決行指定

委任

決裁指定

永久

保存期限

成規 裁 7

永久甲 會計

政務次官回付 決裁前後連帶課名主、軍書

決行(決裁)後
回覽課名



件名 在外國大使館附及公使館附陸軍武官俸給令中改正ノ件

番號 陸軍省 第一〇九七號

起元應(課)名

監 查 課

大臣

五

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官
官房御用掛

主務課員

審案
筆記者

大臣官房	主務局長	主務課長	主務課員
了結	領受	出提	領受
昭和 年 五月廿九日	昭和 年 五月廿九日	昭和 年 五月廿九日	昭和 年 五月廿九日

連帶 局長

連帶 局長

連帶 局長

監第四二號

五月廿九日

五月廿九日

五月廿九日

五月廿九日



陸軍省



大臣ヨリ大藏大臣へ協議案

在外國大使館附及公使館附陸軍武官俸給令中別紙勅令案ノ通改正致
度此段及協議候（別紙ハ勅令案ノ通）

陸普第三〇三九號

昭和十年五月廿九日

右異存ナキ旨回答アリタル後

請 議 案

在外國大使館附及公使館附陸軍武官俸給令中別紙勅令案ノ通改正ス
ルノ必要有之候條理由ヲ具シ請閣議

昭和十年 月 日

陸普第三三二一五號 昭和十年六月十一日

陸 軍 大 臣



內閣總理大臣宛

陸軍部

陸

軍

勅令案

官報照合済



朕在外國大使館附及公使館附陸軍武官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年六月二十六日

內閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第一七二號

在外國大使館附及公使館附陸軍武官俸給令中左ノ通改正ス

別表中	支	七千七百七十圓	支	七千七百七十圓	ニ改ム
		四千五十圓	暹	四千五十圓	
			チ	七千圓	

附 則

本令ハ昭和十年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

理 由 書

陸軍平時編制ノ改正ニ依リ新ニ暹羅國在勤帝國公使館附陸軍武官ヲ設置セラレタルニ伴ヒ之ガ在勤俸ヲ規定スルノ要アルニ由ル

在外國大使館附及公使館附陸軍武官在勤俸年額表新舊對照

官名	任所	英、米、佛、露		獨、奧		伊		暹		支	
		陸軍將官	陸軍佐官	陸軍將官	陸軍佐官	陸軍將官	陸軍佐官	陸軍將官	陸軍佐官	陸軍將官	陸軍佐官
陸軍將官		一萬五千圓	一萬五千圓	一萬三千五百圓	一萬二千圓					七千七百七十圓	
陸軍佐官		一萬五百圓	九千七百五十圓	七千圓	四千五十圓						
備考	支那ニ在リテハ將官ニ千二百圓以内、佐官ニ九百圓以内ヲ増給スルコトヲ得										

貳 第一〇九七號

藏計第三三三號

昭和十年六月七日

大藏大臣 高橋 是

陸軍大臣 林 銑十郎 殿



五月二十九日附陸普第三〇三九號ヲ以テ在外國大使館附及公使館附陸軍
武官俸給令中改正ノ件御協議ノ趣了承右ハ異存無之ニ付此段及回答候也
追テ本件實施ノ爲剩餘ヲ生スヘキ在勤俸豫算年額二千七百五十圓ハ之
ヲ本年度ノ不用額トシ十一年ニ於テハ同額ヲ要求減ニ整理相成度爲念
申添候

大 藏 省

(0.2 石井納)

十年度豫算成立額
給與令定額
差引 剩餘額

九、七五〇
七、〇〇〇
二、七五〇

60

保存期限

永久

決裁指定

局長
委任

決行指定

政務次官
回付

決裁前後
連帶課名

補、軍、主

永久甲
合計

陸軍省
10.8.31
157
補任課

決行(決裁)後
回覽課名

陸軍省
10.9.2
361
軍事課

陸軍省
10.8.29
主計課

受領番
退官ニ際シ陸軍文官ニ任用セラレタル者ノ旅費ニ關スル件

大臣
委

次官
委

高級
副官

主務副官
官房御用掛
主務課員

政務
次官

參與官

書記官

審案
筆記者

主務
局長

主務
課長

主務課員

江藤

主務局長
昭和八年二月 日

連帶局長

長課
代
下

大官
昭和八年六月十日

決行後
局長

長課

陸

軍

副官ヨリ陸軍一般へ通牒

(甲)

退官ニ際シ陸軍事務官、陸軍技師、陸軍屬、陸軍技手等ニ任用セラレ他部隊附ト爲リタル者ニ其ノ新舊任地間ノ旅費ヲ支給スル向アルモ此ノ如キ便宜ノ措置トシテ一時的ニ他部隊附ト爲リタル者ハ全然赴任ノ要ナキヲ以テ~~本~~旅費^{ハ限ニ非}亦支給~~非~~ザル儀ト承知相成度依命通牒ス

陸普第四九八三號

昭和十年九月六日



保存期限

永久

決裁指定

執行指定

牛島

政務次官
回付

決裁
前後

連帶
課名

主

衣、軍、

徵、兵、

書

回覽

課名

後

規程

7

永久甲

云斤

陸軍省

10.7.26

受/36

陸軍省

10.7.24

3/5

軍事課

陸軍省

10.7.23

陸軍省

10.7.25

件名

陸軍給與命令中改正ノ件

受領
番號

陸軍省

武第一五四號

起元應(課)名

監

查

陸軍省

10.7.23

午後

主計課

陸軍省

10.7.23

午後

主計課

陸軍省

10.7.25

陸軍省

10.7.25

大臣

牛島

政務
次官

次官

主務
局長

參與官

高級
副官

主務
課長

書記官

主務副官
官房御用掛

主務課員

筆記者

江藤

大官房

了結

昭和

年

九月十九日

主務局

受領

昭和

年

七月

二十日

提出

昭和

年

月

日

番號

第六四號

昭和

年

月

日

連帶

局長

局長

長課

長課

田

田

田

田

田

田

田

田

牛島

田

田

田

田

田

田

田

田

江藤

陸軍省
10.7.23
午後
主計課

陸軍省
10.7.24
3/5
軍事課

陸軍省
10.7.23
陸軍省

陸軍省
10.7.25

永久甲

云斤

陸軍省

10.7.26

受/36

陸軍省

10.7.24

3/5

軍事課

陸軍省

10.7.23

陸軍省

10.7.25

陸軍省

10.7.25

陸軍省

10.7.25



大臣ヨリ大藏大臣へ協議案

陸軍給與令中別紙ノ通改正致度此段及協議候

(別紙ハ勅令案ノ通)

陸普第四二九四號

昭和十年七月廿九日

右異存ナキ旨回答アリタル後

請 議 案

陸軍給與令中別紙勅令案ノ通改正スルノ必要アルニ付理由ヲ具シ閣議ヲ請フ

昭和 年 月 日

陸普第四六四五號

昭和十年八月十九日

陸 軍 大 臣

内閣總理大臣宛



陸 軍

陸軍

勅令案

官報照合
議

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十年九月十一日

内閣總理大臣
陸軍大臣

勅令第二百六十二號

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第十五條中「引渡」ヲ「引繼殘務整理」ニ改ム

第十七條ノ三 失官ト爲リ又ハ陸軍懲罰令ニ依リ免官ト爲リタル下士官ニ

ハ退營賜金ヲ給セズ

退營賜金ヲ支給スベキ事由發生シタル際犯罪又ハ犯行ニ關シ取調
中ニ在ル下士官ニシテ失官若ハ免官ト爲リタル者又ハ聯隊長若ハ

之ト同等以上ノ權アル長官ニ於テ失官若ハ免官ニ該當スト認メタル者ニ付亦前項ニ同ジ

第二十一條第一項中「練習隊」ノ下ニ「* 下士官候補者隊」ヲ加ヘ同條第二項中「及飛行學校生徒」ヲ「、熊谷飛行學校操縱生徒及航空技術學校技術生徒」ニ、同條第三項中「及飛行學校生徒採用豫定者」ヲ「、熊谷飛行學校^{操縱}生徒採用豫定者及航空技術學校^{技術}生徒採用豫定者」ニ、「通信學校生徒採用豫定者」ヲ「工科學校^{入校}生徒採用豫定者、通信學校生徒採用豫定者及戶山學校軍樂生徒採用豫定者」ニ改ム

第四表中

士官學校豫科生徒	工科學校生徒	通信學校生徒	飛行學校生徒	戶山學校軍樂生徒
----------	--------	--------	--------	----------

ヲ

士官學校豫科生徒	工科學校校生	通信學校校生	熊谷飛行學校操縱生徒	航空技術學校技術生徒	戶山學校軍樂生徒
----------	--------	--------	------------	------------	----------

ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十一條第一項及第三十條第三項ノ改正規定並ニ熊谷飛行學校操縦生徒及同採用豫定者ニ關スル改正規定ハ昭和十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

航空技術學校技術生徒ニ關スル改正規定ハ昭和十年八月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

所澤陸軍飛行學校操縦生徒ニ對スル給與ハ昭和十年十一月三十日迄仍從前ノ例ニ依ル

附則

本令ハ昭和十一年八月十日ヨリ之ヲ施行ス俾テ熊谷飛行學校生徒ニ關
 係スル改正規定ハ昭和十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ飛行學校ニ在ル操縦生徒ニ對スル給與ハ昭和十年
 十一月三十日迄仍從前ノ例ニ依ル

改正理由

第十五條及第十七條ノ三ハ用語不明瞭ナルニ依リ修正スルノ要アル
 ニ由ル

第二十一條及第四表ハ航空技術學校ノ新設及陸軍諸學校生徒採用規
 則ノ改正ニ伴ヒ之ガ改正ノ要アルニ由ル

第三十條ノ改正ハ平時編制ノ改正ニ伴ヒ濱松陸軍飛行學校等ニ教導
 隊ニ屬セザル下士官候補者隊ヲ新設セラレタルニ依リ之ヲ加フルノ
 要アルニ由ル

陸軍給與令中改正案新舊對照表

第十五條 待命、休職、停職、豫備役、後備役、退
役ト爲リタル者ニハ事務(引渡)引繼、殘務整理
中在職又ハ現役ニ準シ俸給ヲ給ス

第十七條ノ三 (法令ニ違反シ其ノ職ヲ失ヒタル下士官ニ退
營賜金ヲ給セス退營賜金ヲ支給スヘキ事實發生シ
タル際法令ニ違反スル行爲ニ関シ取調中ニ在ル下士官
ニシテ免官若ハ失官ト爲リタル者又ハ聯隊長若ハ之ト
同等以上ノ權アル長官ニ於テ下士官失職処分ニ該當ス
ト認メタル者ニ付亦同シ)

失官又ハ陸軍懲罰令ニ依リ免官ト爲リタル下士

官ニ退營賜金ヲ給セズ

退營賜金ヲ支給スベキ事由發生シタル際犯罪又ハ
犯行ニ関シ取調中ニ在ル下士官ニシテ失官若ハ免
官ト爲リタル者又ハ聯隊長若ハ之ト同等以上ノ權アル長
官ニ於テ失官若ハ免官ニ該當スト認メタル者ニ付亦前
項ニ同ジ

第三條 糧食ハ准士官以上及營外居住ノ下士官以下ニ在テ
ハ自辨トシ營内居住ノ下士官以下、現役兵トシテ徵集
セラレ入營ノ際特ニ糧食ヲ要スル者、糧食自辨ノ者軍
ヲ含ニシテ公務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ病院
ニ入ル者及軍隊（教導隊、練習隊、下士官候補者

隊、生徒隊及陸軍教導學校學生隊ヲ含ム、宿直勤務ニ服スル者並ニ營内居住ノ下士官以下現役ヲ離レ又ハ召集解除ノ際疾病其他ノ事故ニ因リ歸郷セシム難キ者ニ在リテハ官給トス其ノ定額ハ第九表ニ依ル

士官候補生、士官學校豫科生徒、幼年學校生徒、兵學校甲種下士官學生（及飛行學校生徒）、熊谷飛行學校操縦生徒及航空技術學校技術生徒ニハ在校中ハ病院中前項ノ規定ニ依リ糧食官給ノ者ニハ病院ニ於テ轉地療養中、衛戍分遣隊ノ衛兵及陸軍大臣ノ指定スル衛兵ニ服務中其ノ日數ニ依リ増賄料ヲ

給ス其ノ定額ハ第九表ニ依ル

前二項ノ規定ハ士官學校豫科生徒採用豫定者、幼年學校生徒採用豫定者及飛行學校生徒採用豫定者、能谷飛行學校生徒採用豫定者及航空技術學校生徒採用豫定者ニシテ入校ハ際特ニ糧食ヲ要スルモノニ、第一項ノ規定ハ（通信學校生徒採用豫定者）工科學校生徒採用豫定者、通信學校生徒採用豫定者及江山學校軍樂生徒採用豫定者ニシテ入校ハ際特ニ糧食ヲ要スルモノニ之ヲ準用ス

第三條 第一項 第二項 略

軍隊（教導隊、練習隊、下士官候補者隊及陸軍教導

學校學生隊ヲ含ム附士官及准士官ニシテ中隊(之ニ
 準ズルモノヲ含ム)附ヲ命セラレ其ノ隊ノ勤務ニ服スル者ニハ
 被服手當ヲ給ス其ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム
 以下略

第四表 手當金

區	分	月	額	區	分	月	額
士官候補生(見習士官除ク)		六月	五十錢	經理部依託學生 衛生部依託學生及生徒 獸醫部依託學生及生徒 陸軍法醫官候補依託學生		四月	十五円
幹部候補生 <small>見習士官、見習主計 見習醫官、見習藥 劑官、及見習獸醫 官ヲ除ク</small>		五月	五十錢	陸地測量部修技所生徒		三月	十四円

見習士官 見習主計 見習醫官 見習藥劑官 見習獸醫官	<p>下士官候補者</p> <p>通信學校生徒、能 谷飛行學校豫繳 生徒及航空技術學 校技術生徒豫繳 者</p>	十六 四	<p>士官學校豫科生徒 工科學校生徒 通信學校生徒 飛行學校生徒 體谷飛行學校豫繳生徒 航空技術學校技術生徒 戶山學校軍樂生徒</p>	四 四
--	--	---------	---	--------





第一五四號其(一)

藏計第五二二號

昭和十年八月十七日

大藏大臣 高橋 是



陸軍大臣 林 銑十郎 殿

七月二十九日附陸普第四二九四號ヲ以テ陸軍給與令中改正ノ件御協議ノ
趣了承右異存無之此段及回答候也



大藏省

保存期限

永久

決裁指定

局長

決行指定

牛島

政務次官 回付

決裁 前後連帶

課名

決行(決裁)後 回覽課名

受領 番號

壹 第二六八七號

起元廳(課)名

大藏省

件名

國有財産整理資金特別會計歳入科目ニ關スル件

永久甲

云行

大臣

委

政務次官

委

參與官

書記官

審案 筆記者

主務局長

主務課長

主務課員

次官

高級副官

主務副官 官房御用掛

主務局課

受領 出提

昭和十年九月四日

連帶

局長

長課

大臣官房

受領 了結

昭和九年九月十三日

決行(決裁)後 回覽

局長

長課

經建甲第二六四號

金 廣

吉

川 野

計

陸軍省 課長 監査

副官ヨリ各歳入徴收官へ通牒案

首題ノ件ニ關シ大藏次官ヨリ別紙寫ノ通通牒有之ニ付承知相成
度

陸普第五一七一號

昭和十年九月十四日



別紙圖面書類、建築
課ニ保管ス

取扱者
十年九月二十日

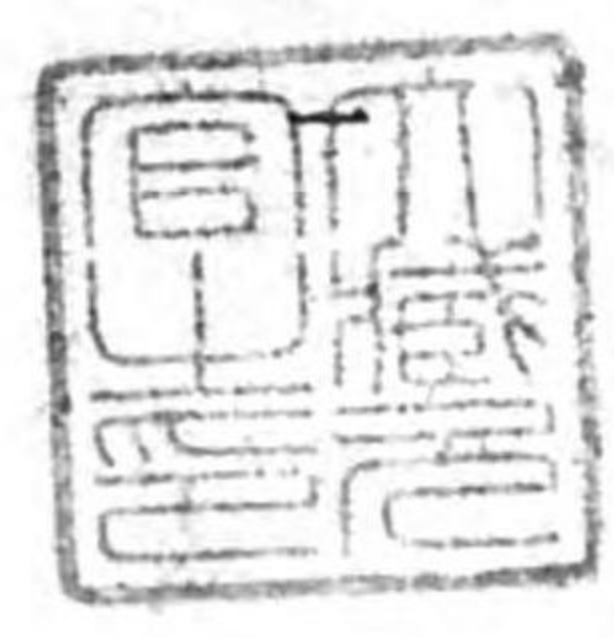
陸軍省
第一號
壹第二六八七號

藏管第六九一號

昭和十年九月三日

大藏次官 津島 壽

陸軍次官 橋本 虎之助 殿



主計

建築

陸軍

陸軍

從來國有財産整理資金特別會計ノ歳入ト相成ルヘキ工作物ノ賣拂代ヲ收
納スハキ科目ニ關シテハ土地ト共ニ賣拂フ場合ハ土地拂下代ニ其ノ他ハ
總テ建物拂下代ノ目ニテ整理シ來リ候處今般右取扱方ヲ左記ノ通變更致
候ニ付御了知相成度此段及通知候也
退テ貴省管下國有財産整理資金特別會計歳入徴收官ニ對シ夫々右取扱
通達方御取計相成度申添候

大藏省



記

- 一 土地ト分離シ得サルモノハ土地拂下代ノ目ニテ整理ノコト
- 二 建物ト分離シ得サルモノハ建物拂下代ノ目ニテ整理ノコト
- 三 其ノ他ハ總テ工作物拂下代ノ目ニテ整理ノコト

三四
 執行指定
 決裁指定
 十年
 保存期限

政務次官
 參與官
 回付
 決裁後
 連帶
 課名
 主軍

決行(決裁)後
 回覽
 課名

永久甲
 会片

受領番號
 陸軍省
 第二二四號
 起元應(課)名
 監査課
 件名
 外國在勤者等ニ支給スル給與ノ臨時増給ニ関スル件

大臣 委	政務次官	高級副官	主務副官	審案 筆記者
局長	參與官	代	書記官	
主務局長	主務課長	主務課員	官房御用掛	
昭和三十九年 月 日	昭和三十九年 月 日	昭和三十九年 月 日	昭和三十九年 月 日	昭和三十九年 月 日
監第九八號	局長	局長	局長	局長
了結	領受	提出	領受	號番
昭和三十九年 月 日	昭和三十九年 月 日	昭和三十九年 月 日	昭和三十九年 月 日	昭和三十九年 月 日

陸軍

陸普第 號

(甲)

陸軍一般

昭和七年勅令第九十號ニ依ル臨時増給支給ノ件
左ノ通定ム

昭和 年 月 日

陸軍大臣

陸軍軍人軍屬ニシテ別表ノ國ニ在勤、駐劄、駐在若ハ旅行
中ノ者ニ對シ昭和十年十月一日ヨリ十一月三十日ニ至ル間
ニ於テ支給又ハ送金スル在勤俸、旅費等ニ付テハ各其
ノ定額ニ對シ別表ノ區分ニ依リ臨時増給ス

陸普第五六九七號 昭和十年十月七日



別表

自昭和十年十月一日
至同年十一月三十日
在勤俸其ノ他臨時増給

國名	區分	旅費	國名	區分	旅費	
正米	利加	四割五分	羅馬	九	十割五分	
英吉	利加	四割五分	エーゴースラヴィア	八	十割五分	
英領	西	四割五分	勃	十	十六割五分	
英領	印度	四割五分	希	五	一分一割五分	
英領	暹	四割五分	西	五	一分一割五分	
伊太	利	三割五分	加	四	五分一割	
瑞	典	三割五分	露	二	五分三割五分	
瑞	典	三割五分	露	二	五分三割五分	
和	蘭	二割五分	露	二	五分三割五分	
和	蘭	二割五分	露	二	五分三割五分	
白	耳	九割五分	佛領	印度	支那	十割五分
白	耳	九割五分	佛領	印度	支那	十割五分
ノ	ト	九割五分	佛領	印度	支那	十割五分
ノ	ト	九割五分	佛領	印度	支那	十割五分
リ	ア	十割五分	佛領	印度	支那	十割五分
リ	ア	十割五分	佛領	印度	支那	十割五分
エ	ス	四割五分	埃	及	四割五分	
エ	ス	四割五分	埃	及	四割五分	
波	蘭	十割五分	南	洲	四割五分	
波	蘭	十割五分	南	洲	四割五分	
智	志	十割五分	南	洲	四割五分	
智	志	十割五分	南	洲	四割五分	
埃	太	九割五分	新	西	一割五分	
埃	太	九割五分	新	西	一割五分	
洪	牙	十割五分	新	西	一割五分	
洪	牙	十割五分	新	西	一割五分	

備
 一、臨時増給ハ、基本タル給與ト同時ニ之ヲ支給又ハ送金タル場合ニ於テハ基本
 二、臨時増給ハ、基本タル給與ト同時ニ之ヲ支給又ハ送金タル場合ニ於テハ基本
 三、臨時増給ハ、基本タル給與ト同時ニ之ヲ支給又ハ送金タル場合ニ於テハ基本
 四、臨時増給ハ、基本タル給與ト同時ニ之ヲ支給又ハ送金タル場合ニ於テハ基本
 五、臨時増給ハ、基本タル給與ト同時ニ之ヲ支給又ハ送金タル場合ニ於テハ基本
 六、臨時増給ハ、基本タル給與ト同時ニ之ヲ支給又ハ送金タル場合ニ於テハ基本
 七、臨時増給ハ、基本タル給與ト同時ニ之ヲ支給又ハ送金タル場合ニ於テハ基本
 八、臨時増給ハ、基本タル給與ト同時ニ之ヲ支給又ハ送金タル場合ニ於テハ基本
 九、臨時増給ハ、基本タル給與ト同時ニ之ヲ支給又ハ送金タル場合ニ於テハ基本
 十、臨時増給ハ、基本タル給與ト同時ニ之ヲ支給又ハ送金タル場合ニ於テハ基本

別表

自昭和十年十月一日
至同年七月三十日

在勤俸其ノ他臨時増給新日付

國名	區分	旅費	國名	區分	旅費
亞米利加	西	五分	亞米利加	東	五分
英領	西	五分	英領	東	五分
獨逸	西	五分	獨逸	東	五分
伊太	西	五分	伊太	東	五分
瑞	西	五分	瑞	東	五分
和	西	五分	和	東	五分
白	西	五分	白	東	五分
瑞	西	五分	瑞	東	五分
ラ	西	五分	ラ	東	五分
リ	西	五分	リ	東	五分
工	西	五分	工	東	五分
波	西	五分	波	東	五分
智	西	五分	智	東	五分
埃	西	五分	埃	東	五分
洪	西	五分	洪	東	五分

備

一、臨時増給ハ、本表ノ各項目ニ於テ、
二、臨時増給ハ、本表ノ各項目ニ於テ、
三、臨時増給ハ、本表ノ各項目ニ於テ、
四、臨時増給ハ、本表ノ各項目ニ於テ、
五、臨時増給ハ、本表ノ各項目ニ於テ、
六、臨時増給ハ、本表ノ各項目ニ於テ、
七、臨時増給ハ、本表ノ各項目ニ於テ、

考	備	洪	埃	智	波	エ	リ	ラ	シ	瑞	白	和	本
一	臨時増給ハ...	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
二	旅費中ノ...	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
三	貸支度料...	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
四	臨時増給...	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
五	臨時増給...	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
六	基本タル...	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
七	返納ヲ要...	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
八	在勤俸一...	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十

香港及廣東ニ付テハ在勤俸四割五五分其ノ他ノ支那ニ付テハ在勤俸一割五五分トス

旅費一割五五分トス

在勤俸一割五五分トス

在勤俸一割五五分トス

在勤俸一割五五分トス

在勤俸一割五五分トス

在勤俸一割五五分トス

在勤俸一割五五分トス

四

保存期限
永久
決裁指定
大官
執行指定
牛島

大臣 委	局長 主務	次官	政務 次官	參與官	書記官	審案 筆者
監第九九號	局長 主務	高級 副官	參與官	書記官	書記官	審案 筆者
局長 主務	局長 主務	高級 副官	參與官	書記官	書記官	審案 筆者
局長 主務	局長 主務	高級 副官	參與官	書記官	書記官	審案 筆者
局長 主務	局長 主務	高級 副官	參與官	書記官	書記官	審案 筆者
局長 主務	局長 主務	高級 副官	參與官	書記官	書記官	審案 筆者
局長 主務	局長 主務	高級 副官	參與官	書記官	書記官	審案 筆者
局長 主務	局長 主務	高級 副官	參與官	書記官	書記官	審案 筆者
局長 主務	局長 主務	高級 副官	參與官	書記官	書記官	審案 筆者
局長 主務	局長 主務	高級 副官	參與官	書記官	書記官	審案 筆者

受領番
參第八八〇號
航空加俸增給一件
陸軍航空本部

政務次官
回付
決裁前後連帶
主、軍、兵
決行(決裁)後
回覽課名

陸軍省
10.10.9
139
軍事課

陸軍省
10.10.9
143
兵務課

陸軍

陸軍航空本部長へ指令

昭和十年十月一日附航經第四五一號申請、通認
可ス

陸軍第五八〇六號

昭和十年十月十二日

説明

飛行中ノ敵飛行機爆撃(或ハ破壊)ノ有力ナル手段
ニシテ研究ノ要アリ而モ相當危險性(高度低キ爲更
ニ大ナリ)ヲ有スルヲ以テ危險加俸支給然ルヘキモノト認ム

陸軍航空本部長

陸軍航空本部

陸軍航空本部



主計

陸軍省 參第 八八〇 號

航經第四五一號

航空加俸増給ノ件申請

昭和十年十月一日

陸軍航空本部長堀

丈夫

陸軍大臣 川島義之殿

別紙航空試験ハ特ニ危険ト認ムルニ依リ日額甲ヲ増給致度ニ付認可
セラレ度

陸軍省 昭和十年十月二日 航空部 大臣

陸軍省 10.10.2 139 軍事課

小園

木村

陸

陸軍航空本部 長之印

陸軍省 10.10.5 陸軍省 10.10.2 時 主計課

陸軍省 10.10.3 143



別紙

航空加俸増給ヲ要スル事由

ト一ノ一試験

一 實施事項

ト一ノ一（攻撃試験）ハ地上二〇米ノ層上ニ設置セル飛行機翼
 ニ對シ飛行中ノ飛行機ヨリ長サ約一〇〇米（抗張力約三百斤）
 ノ鋼索ヲ以テ垂下セル約五斤ノ彈ヲ衝突セシムル爲飛行機力索
 ノ張力ニ依リ顛覆スル虞アルヲ以テ最モ危険ナリ

一 實施飛行機及實施期間

機	種	番	號	期	間	摘	要
九一式	戰	二	一四	自	九月七日		
九三式	單	五	〇六	自	九月八日		
	輕			至	九月四日		
	爆						
	擊						
	機						

ト一ノ三試験



陸





一 實施事項

ト一ノ三（攻撃試験）ハ地上二〇米ノ檣上ニ設置セル飛行機ニ對シ飛行機ノ胴體兩外側部ニ装着セル散布爆彈ヲ以テ攻撃スルモノニシテ之カ爲目標至近距離ニ於テ操縦者カ右手ヲ以テ上ケ舵ヲ取り乍ラ左手ニテ（此ノ時瓦斯レバヨリ左手ヲ離ス）爆彈ヲ連續投下スルヲ要シ爲メニ飛行機ヲ目標ニ衝突^{ヤル}ル虞アルヲ以テ最モ危険ナリ

ニ 實施飛行機及實施期間

機	種	番	號	期	間	摘	要
九一式	戰	二	一	自	九		
	闘	四		至	九		
	機			月	八		
				日	日		

第五四號

宇島

決行指定

局長

決裁指定

永久

保存期限

政務次官回付 決裁前後連帶
參與官

決行(決裁)後
回覽課名

永久 宇島

受番 經理局建築課 起元應(課)名

件名 昭和九年度國有財產增減報告書送附ノ件

大臣 委員	政務次官	參與官	書記官	審案 筆記者
局長 主務	高級副官 宇島	主務副官 官房御用掛 計		
主務課長	主務課員			

主務局長 號番 經理局第三〇六	領受 昭和十年十月十八日	提出 昭和十年十月十八日	領受 昭和十年十月十八日	了結 昭和十年十月十八日
連帶 局長	決行後 局長	決行後 局長	決行後 局長	決行後 局長
課長	課長	課長	課長	課長

主任

大臣又ハ大藏大臣へ通牒案

國有財産法施行令第三十六條ニ依リ首題報告書左記ノ通送附ス

記

一 一般會計所屬

二 特別會計所屬

外ニ各會計別工作物器具機械種目明細書添附ス

陸普第五九六四號 昭和十年十月十八日

大官

大官

計 各 部 味 六 平 選 國 官 視 査 館 總 務 書 署 送 附 一 冊

二五六

珠元(類)

同 計 (共 送) 送

同 計 (共 送) 送



一

Administrative stamps and seals at the top of the page, including a large square seal with the character '奉' and a circular seal with '陸普'.

四 五

第四

保存期限

決裁指定

決行指定

生島

政務次官 回付 決裁後一連帶 課名 主計

決行(決裁)後 回覽課名

昭和拾年拾月拾五日

永久印

受領番號

文部省 領省 貳第二二五八

起元應(課名)

主計課

件名

豫算外外國庫ノ負担卜ナルハキ契約
二箇スル件

大臣

委

政務次官 次官 局長 主務

參與官

書記官

主務副官 官房 費用掛

主務課長

主務課員

主務局長

受領番號
經被申第一四五號
提出
昭和 年 月 日
昭昭和拾年拾月拾八日

大臣官房

受領
昭和 年 月 日
昭昭和拾年拾月十八日
了結
昭和 年 月 日
昭昭和拾年拾月十五日

連帶

局長

長課

局長

長課



陸軍被服本廠長一達

(陸普)

昭和十一年年度年頭初所要ノ被服
品ニシテ十一年度ニ於テ購買製作等
ノ契約ヲ為スコトヲ必要トスルモハ左
記金額ノ範圍内ニ於テ之ヲ施行シ得
ル儀ト心得ヘシ

左記

陸普第五九七五號 昭和十年十月十九日

一金百多拾九萬七千圓 軍事費衣糧費

陸軍省
陸軍被服廠
陸軍被服本廠

陸軍省
陸軍被服本廠

陸軍省

保存期限 永久
 決裁指定 永久
 委任官 次官
 決行指定

大臣委		件名		受領番號	
局長 主務 局長		被服手当支給方ニ關スル件		陸軍省 第二二七五號	
次官		政務 次官		起元應(課)名	
高級 副官		參與官		監	
主務 副官		書記官		查	
主務 課員		審案 筆記者			
局長	局長	局長	局長	局長	局長
昭和三十二年十月廿六日	昭和三十二年十月廿一日	昭和三十二年十月廿一日	昭和三十二年十月廿一日	昭和三十二年十月廿一日	昭和三十二年十月廿一日

政務次官回付 決裁前後連帶 主、軍、兵

決行(決裁)後 回覽課名

陸軍省 10.10.17 394 軍事課

陸軍省 10.10.10 午後 陸軍省

10.10.12 陸軍省

永久甲

陸軍省

副官ヨリ近衛師團參謀長及會計検査院第二部長へ
通牒

昭和十年軍令陸乙第四號陸軍平時編制中特別規定ニ依リ新設セラレ
タル電信第一聯隊特種無線隊ハ陸軍給與令第三十條ノ規定ニ依リ之
ヲ中隊ニ準ズルモノトシテ指定セラレタルニ付通牒ス

説明

陸普第六〇五三號 昭和十年十月廿四日

電信第一聯隊ニ新設セラレタル特種無線隊附ノ士官及准士官ニ被服
手當ヲ支給スルノ要アルモ該隊ハ平時編制中特別規定ニ依リ新設セ
ラレタルモノナルヲ以テ給與令細則ハ之ヲ改正セズ單行通牒ニ據ル
ヲ適當トスルニ由ル

保存期限

永久

決裁指定

次官委任

決行指定



手

四

政務次官回付 決裁前後連帶 主衣、建、軍、徵、兵

陸軍領 二一六九

起元廳(課)名

監

件名 陸軍給與令細則中改正ノ件

大臣委

次官



政務次官

參與官

高級副官



書記官



主務副官

官房御用掛

主務局長



主務課長



主務課員

監第九三號

連

帶

局長



長課



大官房

受領

昭和三十二年

十月廿一日

十月廿一日

十月廿一日

十月廿一日

十月廿一日

十月廿一日

(決行) 決行後

局長

長課

陸

軍



永久甲 今計

陸達第三十四號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

昭和十年十月三十日

陸軍大臣

第七條 削除

第十六條中「官職」ヲ「官」ニ改ム

第二十條ノ三 前^六條ノ諸加俸ノ支給ニ付テハ俸給又ハ給料ニ關ス

ル規定ヲ準用ス

第三十四條ノ二第一項ヲ左ノ如ク^改ム

豫備役、後備役下士官ニシテ再ヒ現役ト爲リ營内ニ居住スル者ノ退營賜金額ハ前後ニ於ケル在營年數ヲ通算シ之ニ相當スル金額ヨ

陸達第三十四號

十月三十日

官報照合

リ前ニ支給シタル額ヲ控除シタル額トス

第五十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

本令第三十條ニ於テ中隊ニ準スルモノトハ機關銃隊、步兵砲隊、野砲兵聯隊高射砲隊、下士官候補者隊、固定無線隊、整備隊、步兵學校通信隊、同戰車隊、騎兵學校無線電信教習隊、同裝甲自動車隊、野戰砲兵學校情報隊、重砲兵學校練習生隊、濱松陸軍飛行學校練習隊及自動車學校練習隊ヲ謂フ

第五十三條第一項第二號中「第六第七號該當者」ヲ「第五號及第六號該當者」ニ、同項第二號中「一期入營部隊」(第四號ニ該當スルモノヲ除ク)ノヲ除ク)ノ步兵兵」ヲ「步兵兵(第三號ニ該當スルモノヲ除ク)」ニ、同項第五號中「步兵兵」ヲ「步兵兵(看護兵及磨工兵)」ニ、

「青年訓練未修了者、同檢定不合格者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之
ト同等以上ト認ムル課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得
セサル者、」陸軍大臣ノ定ムル檢定不合格者」ニ改メ同項第十一號中
「入營當日」ノ下ニ「（入營後轉屬アリタルトキハ轉屬當日）」ヲ
加ヘ同項第三號ヲ削リ第四號ヲ第三號トシ以下順次繰上ク
第五十三條ノ二「軍隊ニシテ編制改正、海外派遣等ノ爲定員ニ不足
シ又ハ超過シタル間ニ於ケル被服費定額ハ左ノ區分ニ依ル」ヨリ
「海外派遣等ノ爲定員ニ不足ヲ生シタルトキハ其ノ人員及派遣
本月數（出發ノ翌月ヨリ歸著ノ當月迄）ニ應シ下士官兵被服、特
種被服及備附被服（寢具）ノ各年額ノ月割額ヲ減ス
二編制改正其ノ他ニ依リ一時定員ニ超過シタルトキハ其ノ人員

及在營月數(過員トナリタル翌月ヨリ定員ニ編入又ハ轉出ノ當
月迄)ニ應シ下士官兵被服、特種被服及備附被服ノ各年額ノ月

割額ヲ交付ス

第五十七條ノ二中「第十二號」ヲ「第十一號」ニ、「」及第五十四條

「」ヲ「」第五十三條ノ二及第五十四條「」ニ改ム

第六十六條第三項中「前二項」ヲ「第一項及第二項」ニ改メ同條第

二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項勤務月數ノ算定ニ付テハ第五十二條第四項ノ規定ヲ準用ス

第七十五條ノ二乙號中「野砲兵隊」ノ下ニ「、山砲兵隊(十五榴大

隊ニ限ル)」ヲ加フ

第八十九條第一號ヲ左フ如ク改メ同條第四號中「青年訓練未修了者

同檢定不合格者」ヲ「青年學校ノ課程又ハ之下同等以上ト認ムル
課程ニ付陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得セサル者、陸軍大臣
ノ定ムル檢定不合格者」ニ改ム

一 歩兵兵及看護兵ニ在リテハ消耗品料及陣營具永續料ハ其ノ定
二 員ノ四分ノ三ニ應シ年額ヲ、煖室用薪炭料ハ其ノ定員ノ二分ノ
六ニ應シ年額ヲ、同定員ノ二分ノ一ニ應シ入營當月以降ノ給與
」モ「月數一端月ハ切上ク以下同シ」ニ應スル年額ノ月割額（當該給
與正與期間ニ相當スル月數ニテ年額ヲ除シタル額以下同シ）ヲ交付ス
但シ近衛師團各部隊ノ煖室用薪炭料ハ定員ニ應シ年額ヲ交付ス
第九十二條中「入營當日」以下「入營後轉屬アリタルトキハ轉
屬當日」ヲ加フ

表
生
徒
被
服

帽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
袴衣軍	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
袴衣冬	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
袴衣夏	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
套外	二	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
套外雨防	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
布襟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下袴袴襦冬	一	二	一	二	二	二	二	二	一	二	一	二	一	二	一	二	-	-	-	-
下袴袴襦夏	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
袋手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下靴	二	二	六	六	六	六	六	六	二	六	六	二	二	六	三	三	六	六	-	-
靴上編	一	二	一	二	二	三	二	二	-	二	一	一	二	一	一	二	一	二	-	-
絆脚卷	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
靴内營	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	年二	年二	年二
絆脚革	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	年六	年六	年六
車拍	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	年三	年三	年三
種第衣作	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	年三	年三	年三
種第袴業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	年三	年三	年三
襟手隊軍	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
囊背	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	年五十	年五十	年五十
囊雜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	年八	年八	年八
盒飯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	年三十二	年三十二	年三十二
筒水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	年六十二	年六十二	年六十二
幕天帶携	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	年五十	年五十	年五十
具入手服被	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	年四	年四	年四

從中幼年學校ヨリ入校ノ者ニ付テハ軍
 費生ニ在リテハ管内靴、雜囊、水筒及被服手
 具ヲ除ク以外、被服ハ短期現役兵及自費生
 計ヨリ支給スルモノトス
 帽、冬衣袴、夏衣袴、外套、

騎	步	運	被	教	隊大兵重輜					氣	隊聯行飛					聯	電	鐵	鐵	隊大兵工			高	高	隊兵重	隊兵重	隊兵重	野							
兵	兵	輸	服	化	第	第	第	第	第	近衛、第三、第九、第十一、第十四、第十八	球	第	第	第	第	第	第	道	道	第	第	近衛、第一乃至第三、第五乃至第七、第九、第十一、第十六、第十八	射	射	函	舞	深	橫	第	第	第				
學	學	部	本	隊	八、第	二、第	四、第	五、第	十六	六	隊	四、第	第	第	第	第	二	第	第	第	四、第	第十、第十四	八	隊	第一聯	鶴、鷄	賀、下	八	七、第	第	第	第			
校	校	部	廠	隊	十	七	十六	十六	六	一	隊	七	五	三	二	一	一	二	一	一	二	一	一	隊	佐世保	知	山	八	八	八	六	六	六		
		一四〇																																	
四	三	一	七	一	四	四	四	四	五	五	三	八	五	四	三	四	一	十	十	一	四	三	四	九	四	三	五	八	五	八	八	八	六	四	
三	一	〇	〇	二	三	六	五	八	九	〇	八	六	四	六	三	〇	五	五	六	二	七	四	一	四	三	八	四	四	九	九	九	八	四		
五	三			八	二	八	一	四	六	一	四	五	七	〇	五	五	七	七	七	二	七	六	〇	六	六	六	六	五	八	八	八	八	四	四	

航空技術學校	自動車學	習志野學	山學	士官學	幼年學	教導學	豐橋	熊	工學	獸醫學
一三二	五三三	一五九	三五五	三四四	二〇二五	四二九	一四七	一四七	六八四	二七七
										九〇

備

考

一 運輸部ノ敷布及枕(覆共)ハ患者用トス
 二 輜重兵隊、電信隊、飛行隊及被服本廠ノ被服ハ
 本表定數ノ外分遣者ニ應シ増加スルコトヲ得
 三 諸學校教導隊、練習隊基幹兵残留ニ要スル被服
 ハ其ノ人員ニ應シ残留ノ月數間増加スルコトヲ
 得
 四 電信第一聯隊定數中ニハ軍用鳩通信術修業兵ニ
 供用スル被服六十人分ヲ含ム
 五 蚊帳ノ定數ハ一人用ノモノニ依ル二人以上ノモ
 ノヲ用フルトスハ之ニ應シ箇數ヲ減スルモノト
 ス
 六 歩砲兵無線電信教習所ノ被服ハ最寄軍隊ノ定數
 ニ加フルコトヲ得
 七 甲種幹部候補生(之カ要員タル幹部候補生及兵
 ヲ含ム)ニ要スル被服ハ入營當日ノ現人員ニ應
 シ増加スルコトヲ得

屋

第四表 備附被服 (其一、二)

品名	區分		數量	備註	部隊										
	分	區			第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	
正帽	供	奉	年十	正	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
正衣	供	奉	年十	正	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
紺靴	供	奉	年十	長	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
正帽	供	奉	年十	正	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
正衣	供	奉	年十	正	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
正夏衣	供	奉	年十	正	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
正劍	供	奉	年十	正	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
編上靴	供	奉	年六	編	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
斯瓦斯頭巾	供	奉	月六	斯瓦	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
斯瓦斯衣袴	供	奉	月六	斯瓦	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
斯瓦斯手袋	供	奉	月六	斯瓦	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
斯瓦斯靴	供	奉	月六	斯瓦	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
斯瓦斯手袋	供	奉	月六	斯瓦	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
運動帽	供	奉	年三	運動	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
運動衣袴	供	奉	年二	運動	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
運動帶	供	奉	年三	運動	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
運動靴	供	奉	月六	運動	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
戰車帽	供	奉	年三	戰車	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
戰車眼鏡	供	奉	年三	戰車	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
作業帽	供	奉	年三	作業	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
作業衣	供	奉	年三	作業	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
作業袴	供	奉	年三	作業	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
前胸	供	奉	年一	前胸	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
胸	供	奉	年一	胸	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
運轉用手袋	供	奉	年二	運轉	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
防塵眼鏡	供	奉	年三	防塵	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
手拍	供	奉	月六	手拍	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
雜飯	供	奉	年十	雜飯	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
飯水	供	奉	年八	飯水	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
背囊	供	奉	年二	背囊	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
筒囊	供	奉	年二	筒囊	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
筒囊	供	奉	年五	筒囊	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十

三〇一〇〇三〇五

九一

五三 四三

二五

一〇八

二九

五四二

六六

教

九

考備	兵															工	學	教	幼	士	戶	習	自	航	飛行學校				工	重	野	騎	步	被	效	隊			
	京	宇	久	善	姬	金	弘	旭	熊	廣	大	名	仙	橫	東										豐	仙	志	動									空	濱	明
當分、四本表、外練、習用トシテ鐵帽、防彈衣、防長面、特種防毒面、防毒衣、防毒袴、防毒手袋、防毒靴、防毒衣、袴用包布、防毒外被及防毒脚絆ヲ增加スルコトヲ得、其、備附部隊及定数ハ臨機之ヲ定ム	都	宮	米	寺	路	澤	前	川	本	島	阪	屋	臺	濱	京	校	校	橋	本	校	校	校	校	校	松	野	津	谷	澤	校	校	校	校	廠	隊				

近衛第三師團
第二旅團
第一旅團
第二旅團
第三旅團
第四旅團
第五旅團
第六旅團
第七旅團
第八旅團
第九旅團
第十旅團

第四表

備附

被服 (其ノ三)

備考	士官學校	飛行學校					氣球	飛行聯隊						區 品 給 興 分 期 目 限				
		濱	明	下	熊	所		第	第	第	第	第	第					
		松	野	津	谷	澤		七	五	四	三	二	一					
研究所ニ供用スルモノトス	五												年八	帽	空航			
	二〇												年六	種一第	巾頭空航			
	二五												年六	種二第				
	二〇												年二	種一第	面覆空航			
	二五												年一	種二第				
	二〇												年四	種一第	服空航			
	二五												年三	種二第				
	二〇												年三	種一第	袋手空航			
	二五												年三	種二第				
	二〇												年一	種一第	手ヤメ航 袋スリ空			
	二五												年一	種二第				
	二〇												年六	卷襟	空航			
	二五	一	二	一	二	二	二	一	九	一	九	七	五	七	年三	種一第	靴空航	
	二五	八	五	〇	三	六	三	九	一	九	七	五	七	年三	種二第			
	二五	〇	〇	〇	〇	五	〇	九	二	二	〇	一	四	年四	鏡眼	空航		
三	五	三	二	三	四	四	八	四	二	二	二	四	年十	面	空航			
														年六	巾頭	空航熱電		
														年六	服	空航熱電		
														年四	袋手	空航熱電		
														年二	袋足	空航熱電		
	二	二	一	一	二	三		八	六	三	三	三	五	年四	器抗	抵		

第十一表消耗品料高射砲隊ノ行中

高射砲隊	四〇八				三九六〇		
------	-----	--	--	--	------	--	--

ヲ

高射砲隊	
第一	第二
四〇八	二八八
三九六〇	

ニ

改ム

第十二表煖室用薪炭料及給與期間高射砲隊ノ行中第三區ノ欄

	ヲ	五四〇	一九二〇	ニ改メ同表備考第
--	---	-----	------	----------

一號中「步兵第九聯隊二百四十八圓」ヲ削ル

陸軍